



「ふと、考えてみた。」

全世界にお魚、いわゆる魚類はどれくらいの種類がいるんだろうかと。

実は毎年数百種の新種が発表されてきており、新種は年々増えてきてますが、2022年現在、だいたい44,000種くらいいるのではないかと言われています。

ではわが国には、どれくらいの魚が生息しているのでしょうか。

およそ3,800種程度と言われています。実に全世界の魚種の8・6%が日本で見られることになります。これだけではピンとこないかもしれませんが、世界の主要な海域で見られる魚種は次のとおりです。

- ・インド太平洋（インド洋から西部太平洋までの海域）……約3,000種
- ・西部大西洋……約1,200種
- ・東部太平洋……約1,000種

- ・東部大西洋……約500種

- ・地中海……約500種

- ・北極、南極……それぞれ約250種

ちなみに日本の国土は、地球全体の陸地の0・25%しかありません。これを見ると、日本という国がいかに地球上で古来から豊富な魚種に恵まれた国だったかがよくわかると思います。

これは「釣り」に関してもいえることで、住んでいると気付きにくいですが、世界中で我が国ほど釣りの対象魚が豊富な国もなかなか無い様です。

これはなぜか。地理的に日本という国土が、表は太平洋という大海に臨み、裏は日本海とオホーツク海、東シナ海を列島と挟んだ長大な海峡部になっています。

その中であって、九州は黒潮が分化した流れに親潮の分流、対馬海流が壱岐水道・対馬海峡の大陸棚上の大きな海峡部でぶつかり合う所に位置しています。

また上空にはジェット気流が流れ、表層は季節風でかき乱され、水中では大きな潮流がうねり、そんな海域では、常に魚のエサとなる莫大なプランクトンが生成されています。その水面下では海流に乗ってやって来る多くの魚種を集め養い育ててくれています。

国内にいる釣り人は、海外の大物や特定の場所にしかない有名で珍しい対象魚や大物を釣ることが夢であったり、羨ましいという想いが強いかもしれませんが、でも実は我々日本の釣りの環境のほ



うがずっとずっと恵まれているのかも。
海は広いですが、そのどこにでも魚がいるわけではありません。岸から釣りをしていると、沖合いに出ればたくさん魚が釣れそうな気がしますが、実は少し違うようです。

視野を拡げて見ると、実は魚はなにもない大洋のど真ん中よりも島や陸地の周辺を好みます。魚は単体で何かの物陰を好み寄り添う性質を持つものが多いばかりでなく、海域にある島、複雑な海岸線がある陸地や水中にある岩礁などの「変化」を好みます。その「変化」がたくさんあり多くのプランクトンを供給しているのが我が国、日本列島の地形なのです。大小の島の群島から成り、各所に海峡部があり、それに海流が当ること地球規模で魚が集まりやすい特異な環境になっています。

特に九州の西北部は、壱岐・対馬を始め

とする数多の島々とその周りの海峡部、リアス海岸と呼ばれる複雑な海岸線を擁し、それにも増して多様な魚種が生息しやすい環境が整っています。すぐ近くの海辺で魚と親しみやすいのです。これは「奇跡」なのかもしれません。子どもの頃から釣りに親しんできた私は実感しています。

それだけの環境を持つ我が国では魚を獲る漁具も独自に高度に発達してきました。とくに疑似餌を使う釣り、ルアーフィッシングにおいては、発祥はヨーロッパであり道具は北欧製が最上とされてきました。それが21世紀になり多様な魚種を狙う国内での釣りのジャンルが確立されそれぞれの道具も高度に進化してきました。

今や釣具は日本製が世界一です。そして釣りに関しては世界中で至宝ともいえる我が国のフィールド。そんな国で高い工業技術とこだわりの裏付けられた釣具はさらに磨かれ、いまや世界最高水準の道具となってきました。

FFGの営業基盤である九州の、とりわけ西北部は国内でも有数の釣り場に恵まれています。筆者は身近に広がるその豊かで美しいフィールドに、手軽に世界に誇れる素晴らしい釣具を持つて臨めることに、いつも喜びを感じています。

目の前に広がる九州の美しい海をご覧になると、その碧く深い水色の中には奇跡的に恵まれた豊かな世界が広がっていることを思い起こしていただけたら：と願っています。